

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あぶれんどこくらきた		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 7日 ~		令和7年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 7日 ~		令和7年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門資格を持った職員による質の高いサービスを提供している	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・保育士・児童指導員を配置し専門職による支援の提供を行っている	職員間での連携を強化する目的でケース検討会などの機会を増やしていく
2	同じ施設に児童発達と放課後の事業所があるため就学時にスムーズに移行できた	多機能型の利点を最大限に活かし、児童発達と放課後のそれぞれの職員間で積極的に連携を取っている	児童発達利用の児童と放課後等デイサービス利用の児童との交流の機会を増やしていく
3	個々の能力を高める個別療育と社会性を高める集団療育の両方を受けることができている	個別療育での1対1のきめ細やかな支援と、集団療育では集団行動のルールや社会性を学べるような活動の提供を行っている	事業所内の連携を強化することで、ニーズに合わせた個別療育の実施や、集団内では個別活動や集団活動をさらに組み合わせさせて行っていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通常は問題を感じないが、利用する曜日や時間帯によっては集団療育の部屋が手狭に感じるときがある	利用者の希望に添うことを最優先に利用スケジュールを設定していた	全ての利用者が安心して快適に過ごせるように総合的に判断し利用スケジュールの調整を行う
2	送迎先や時間などの変更があるときには、柔軟に対応していたが、職員間での情報伝達が充分ではないと感じるときがあった	通常の変更事項等は午前中に行うミーティングで伝達しているが、突発的に発生した事項については伝達の手段が稀薄であった	業務中に全ての職員に周知できるツールとして、突発的に発生した事項専用の掲示板を新規に設置する
3			